

JA全農 WEEKLY

2面

第1回お米産業展に出展 (米穀生産集荷対策部・米穀部)

2面

複合リゾート施設運営の(株)アクアイグニスと
「地域振興に関する協定書」(経営企画部)



(株)アクアイグニスが来年秋開業予定の施設
=イメージ図(2面)



全日本一輪車競技大会で数多くの高度な
技を魅せるペア演技(5面)



第1回お米産業展に出展し、料理研究家を招いて「おこめパン」の実演調理(2面)

3 茨城県産「コシヒカリ」ロンドンで販売
(茨城県本部)

新ペットボトル無菌充填ラインが稼働!
(愛媛県本部)

4 北海道帯広農高で「酪農の夢」
出張授業(酪農部)

農福連携で障がい者福祉事業所に
業務委託(山梨県本部)

5 スーパーで「栃木県産コシヒカリ使用」
シールを展開(栃木県本部)

全日本一輪車競技大会に協賛
(広報・調査部)

6 JA支援の取り組み全国でスタート
(経営企画部)

7 JAズームイン(JA山武郡市)

8 輸出専用日本酒「TOKYO Z1」誕生
(JA全農インターナショナル(株))

JAタウンショップ紹介
JAひだ(岐阜県)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

全農ホームページリニューアル
(広報・調査部)

卓球日本代表を食で応援!
in T2ダイヤモンドマレーシア大会
(広報・調査部)



News!

第1回お米産業展に出展

米・米加工品と米消費拡大の取り組みを紹介

米穀生産集荷対策部・米穀部



展示会初日のテープカットに全農の高尾雅之常務(前列右端)や農水省の天羽隆政策統括官らが参加



ブース内では、料理研究家を招いて「おこめパン」の実演調理も実施

米穀生産集荷対策部と米穀部は7月3～5日、横浜市で開かれた「第1回お米産業展」に出展し、来場者へ米・米加工品と米消費拡大の取り組みを紹介しました。

お米産業展は「お米の魅力」を伝え、お米の未来を担うお米に関する専門展として今年初めて開催され、全農は、全農パールライス(株)、全農食品(株)、木徳神糧(株)、ミールワークス、(株)サタケと共同で出展しました。

ブース内では全農ブランド商品「お米のミルク」をは

じめ、各社が取り扱う国産米を原料とした米・米加工品の展示・試食配布や、米消費拡大の取り組みで考案した「おこめパン」の実演調理など、期間中、多くの来場者に立ち寄りいただき、国産米の魅力を伝えることができました。

今後米穀生産集荷対策部と米穀部は、国産米の消費拡大・生産者の営農安定のため、取り組みを続けていきます。

News!

(株)アクアイグニスと「地域振興に関する協定書」締結

「食」をテーマにした複合リゾート施設で産地活性化へ

経営企画部



来年秋開業予定の「アクアイグニス多気」(イメージ図)

全農は5月27日、(株)アクアイグニスと「地域振興に関する協定書」を締結しました。

同社は、世界的に著名なパティシエの辻口博啓氏をはじめ、イタリアンシェフの奥田政行氏、和食料理人の笠原将弘氏、著名クリエイターと共に「食と癒やし」をテーマとした複合リゾート施設「アクアイグニス(三重県菟野町、平成24年10月

開業)」を運営しており、年間約100万人を集客することで地域の活性化に貢献しています。

全農は今回の協定締結により、同社が令和2年秋から全国各地で順次開業予定の「食」をテーマとした複合リゾート施設で、同社や

地域JAと相互に連携しながら、有名人と生産者の交流企画、地元農畜産物を販売する産直市場、その食材を活用した飲食店、食と農に関する体験企画などを個別に検討・実施し、産地の活性化と地産地消の促進、インバウンド需要の獲得、国産農畜産物の需要拡大と農業やJAグループへの理解促進につながる情報発信に取り組ま

茨城県産「コシヒカリ」 いざ英国へ!

出荷式典を開催、8月上旬からロンドンで販売

茨城県本部

JAGグループ茨城米輸出協議会は6月20日、神奈川県綾瀬市の全農パールライス(株)神奈川精米工場で、英国へ輸出する県産「コシヒカリ」の出荷式典を開きました。

当日は、輸出用米を生産する協議会会員の生産者とJA、輸出と現地販売を手掛けるJA全農インターナショナル(株)、原料を搗精する全農パールライス(株)、茨城県本部職員ほか関係者が出席し、テープカットなどを行いました。

JAGグループ茨城は、米の販路拡大に向けて30年産米から輸出用米の取り組みを始め、安定供給可能な産地化を進めるため、昨年10



英国へ輸出する茨城県産「コシヒカリ」

月に同協議会を設立しました。今年3月には、JA全農インターナショナル(株)の英国での商談に会員JAも同行するなどし、一体的に今回の出荷に結び付けました。商品は、「茨城県産コシヒカリ」として、8月上旬からロンドン市内での販売を予定しています。

協議会では、今回の輸出を契機として、JAGグループ茨城が一体となった輸出用米の取り組みをより確実なものとしていきます。



英国で販売する商品を手にPRする関係者

新ペットボトル無菌充填ラインが稼働!

果汁のおいしさを保った商品製造

愛媛県本部

愛媛県本部グループ会社の(株)えひめ飲料は、同社東京工場(神奈川県厚木市)に新ペットボトル無菌充填ラインを設置し、6月28日から稼働しました。7月5日には、竣工神事とライン見学会を行い、関係者約60人が参加しました。

既存のラインでは中身液を高温で殺菌し、その熱で容器も殺菌するのに対し、新ラインは殺菌後、すぐに冷却して、あらかじめ殺菌された容器に充填するため、中身液が高温状態にある時間が短くなり、よりおいしいジュースを作ることができまます。新ラインで製造された製品は、年間650万ケースの販売を目指します。竣工神事後、同市内のホテルで竣工式典・記念

パーティを開きました。山本卓治社長は、「今年、果汁100%ポンジュースの発売50周年を迎える。今後は、新ラインを活用したポンジュース製造など、POM製品のおいしさの追求と、地域社会、愛媛かんきつ産業の振興に貢献していきたい」とあいさつしました。



竣工式典であいさつする山本社長



新ペットボトル無菌充填ラインを見学する関係者ら

News!



北海道帯広農高で15回目の「酪農の夢」出張授業

日本コカ・コーラ(株)の5by20プロジェクトと連携

酪農部

酪農への思いを語る北出さん(左)と砂子田さん



15回目となる帯広農高は、NHKの朝ドラ「なつぞら」や、映画化された人気漫画「銀の匙」の舞台で、約120人が参加しました。

ヨーグルト販売や酪農体験を受け入れている土幌町の北出愛さん(山岸牧場さくら工房)と酪農家の親元から独立して牧場を営む尾馬町の砂子田円佳さん(株マ

酪農部は、日本コカ・コーラ(株)と連携している5by20プロジェクトの一環として、酪農の次世代育成を目的とした「酪農の夢」出張授業を6月20日、北海道帯広市の北海道帯広農業高校で開きました。



酪農部のクイズに元気よく手を挙げる帯広農高生

ドリ)の女性酪農家2人が講演。おのおのが異なる環境の中で工夫を凝らし精いっぱい牛に尽くしていることや、酪農業界全体がチームとなつて酪農を支えていること、人との出会い・つながりの大切さなどを語りました。生徒からは「私もお2人のように好きな仕事に就き、キラキラと輝ける女性になりたいと思いました」と感想がありました。

News!



農福連携で障がい者福祉事業所に業務委託

入所者が果実贈答用箱折り作業に励む

山梨県本部



果実の贈答用箱折り作業に励む入所者ら

「農福連携」は障がいのある方が農業に取り組んだり、農業者と連携して農作業に取り組む活動で、山梨県本部は、山梨県農政部農村振興課、山梨県農福連携推進センターに協力いただき「たんぼ」に業務委託することになりました。

作業初日は、施設に組み立て前の段ボールを山梨県本部の職員が運び入れ、3人の入所者が、施設職員の指導を受けながら、真剣な

山梨県本部は「農福連携」活動の一環として、甲府市の障がい福祉サービス多機能型事業所「たんぼ」に、贈答用果実の繁忙期となる6月24日から贈答用の箱折り作業を業務委託しました。

「施設が社会参加していることもアピールしたい」と話す「たんぼ」の板山理事長



面持ちで作業に取り組んでいました。作業期間は3カ月間で、3種類の化粧箱を5000〜6000個作成してもらおう予定です。

「たんぼ」代表の板山俊介理事長は「今回このようなお話をいただき大変ありがたく思っています。作業を通して、障がい者が働く自信を持てたり、施設が社会参加していることのアピールにもつながりたい」と話しました。



スーパーで「栃木県産コシヒカリ使用」シールを展開

県内消費者に「とちぎのお米」をPR

栃木県本部

栃木県産「コシヒカリ」
をアピールするシール



オータニでは、日頃から栃木県本部パールライス部の栃木米を使用いただいており、今回はお客さまに、オータニで販売される総菜と栃木米を合わせて食べていただくことで、さらなる

消費拡大を目指しました。貼付するシールは、「おわかりしたくなる」とちぎのお米「パールライス」のデザインをあしらった米の形のものを作成し、一目で県産「コシヒカリ」の使用が伝わるよう工夫しました。

平成30年産の栃木県産「コシヒカリ」（県北地区）は、日本穀物検定協会による食味ランキングで特Aを獲得しました。その魅力も、県内の消費者をはじめ、食品流通関係者にしっかりと発信していく取り組みを、栃木県本部は今後も続けていきます。

栃木県本部は4月から6月にかけて、県内のスーパー「オータニ」で、「パールライス 栃木県産コシヒカリ使用」シールを展開しました。県内の消費者に向けて栃木県産「コシヒカリ」の魅力を発信することを目的にしています。



一輪車選手の健やかな心身の成長と夢の実現を応援

今年度から全日本一輪車競技大会に協賛

広報・調査部



総合優勝(グループの部)のIEG一輪車クラブ「柘榴'S」(川崎市)

開会式で全農広報・調査部の落合成年部長が「国産農畜産物をバランス良くしっかりと食べて丈夫な体を作り、最高のパフォーマンスを発揮できるよう頑張ってください」と激励しました。全農はこれまでも卓球やカーリングをはじめ、サッカー、野球、水泳などのス

大会には全国の32団体からペアとグループの部に計328人が出場。華麗な演技を披露し、技術力や表現力、作品の魅力・完成度などを競い合いました。

全農は2019年度から、全日本一輪車競技大会に協賛します。7月14日には群馬県高崎市の高崎アリーナで「2019 全日本一輪車競技大会(日本一輪車協会主催)」の演技部門が開催されました。



息の合った集団美で会場を魅了するグループ演技

2019全日本一輪車競技大会の様子は
こちらから



総合優勝は次の通り。
◇グループの部ⅡIEG一輪車クラブ「柘榴'S」。
◇ペアの部Ⅱ川崎渡田一輪車クラブ(斉藤さん・菊池さん)。

ポーツ支援を行っています。子どもたちになじみの深い一輪車競技への協賛を通じて、子どもたちの健やかな心身の成長と夢の実現を応援します。

多くの県域がJA経済事業強化メニュー実践に着手

全農のJA支援の取り組みが今春から全国でスタートし、多くの県域が地域実態やニーズに応じたJA経済事業強化メニューの実践に着手しています。【経営企画部】

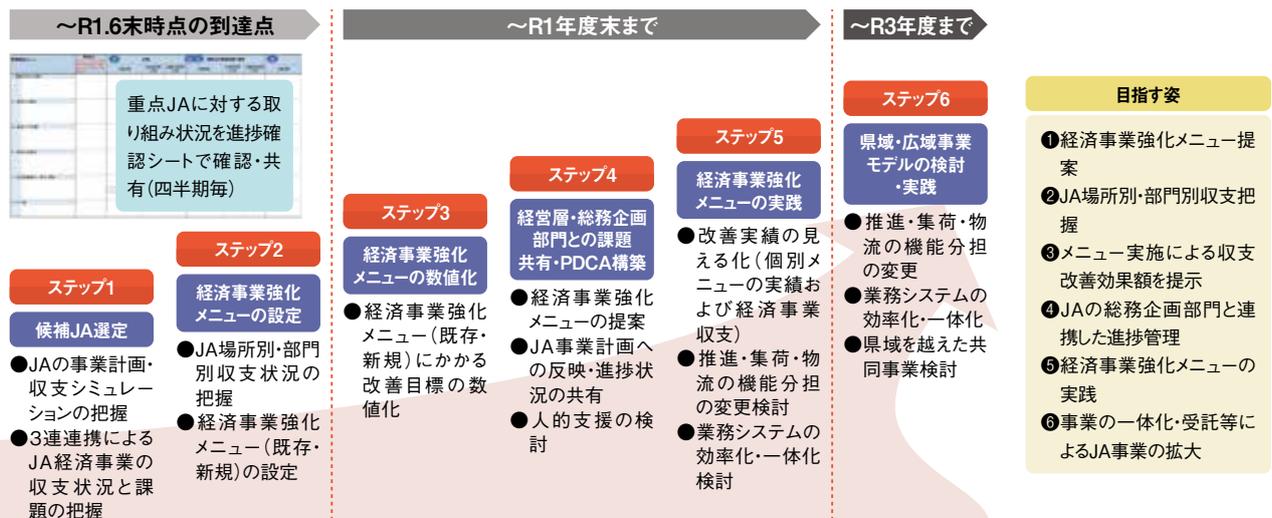
具体的には、生産者ニーズに対応し系統利用拡大を目指す【①農家対応力の強化】、実需に応じた生産と系統直販強化を実践する【②販売力の強化】、就農を支援する【③産地づくり支援】、物流の広域化・システム化を目指す【④物流の合理化】、農機・SS・ガス事業等の一体運営を促進する【⑤拠点型事業の一体化・受託】という5つのテーマに沿ったメニューを設定し、県中央会・信用系統との連携のもと、重点JA企画管理部門と合意したPDCAサイクルの構

築により、JAの経済事業拡大と運営コスト削減に取り組んでいます。

また、全国の県連・県域JA・都府県本部とJA支援課が個別協議を進める中で、全国的な課題(就農支援・人材確保、資産運用管理の合理化、事業運営コストの削減等)も指摘されており、外部企業と連携した新たな仕組みや体制を短期間に構築・整備し、全国共通の新規メニューとして今年度中の運用を目指しています。

今後も、全国の実践成功事例の共有と新たなメニュー開発に取り組む、「JA支援」の取り組みを加速することで、JA経済事業の拡大に貢献します。

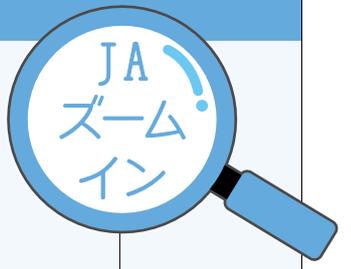
JA支援にかかる“ステップ6”



経済事業強化メニュー(新規メニューの検討)

全国共通課題について検討・準備中の対応策一覧

	課題	現状	対応策
成長戦略	就農支援	JA・法人が求人情報を出しても人が集まらない 農業に従事したくてもアクセス先が解らない	一次産業の求人の特化した複数の外部企業と提携 ⇒ 日本最大の就農マッチングサイトを短期間に創設
		農業における障がい者雇用が進んでいない	特例子会社設立により、障がい者雇用を促進し、就農支援につなげる仕組みを検討
	JA人材育成	産地・販売に関する知識を習得する機会が少ない	全農グループ会社と大口JAの人事交流の実施 (全農パルライズ(株) 他)
効率化戦略	資産管理 運用の最適化	JAやグループ会社で即戦力となる人材が不足している	JAグループOBを対象とした人材バンクの立ち上げを検討
		資産の取得・管理・運用の効率化が不十分である	リース会社と連携した遊休資産対策や残価設定型リース、資産のリース化による管理業務の省力化等を提案



組合員ニーズを反映させた

農業振興計画を着々と実践

JA山武郡市は、平成28年から農業振興計画2016を実践しています。計画策定に当たり、組合員がJAに要望している事項は何なのか、その要望を計画に反映すべくアンケート、ヒアリングを行いました。その結果、組合員はJAに対しさまざまな

要望がある中で、所得の向上につながる営農指導、労働力の確保とその支援に対する要望が強いことが判明しました。

組合員ニーズを農業振興、中期経営計画に反映し実践



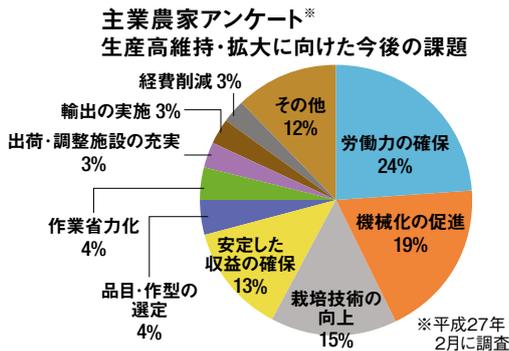
農家へ出向きさまざまな相談に応じるJA職員

抽出した組合員ニーズを農業振興計画、さらには中期経営計画に落とし込みました。策定した農業振興計画の項目から「農家所得向上につながる営農指導」と「労働力確保に向けた支援」を優先する課題として定め、重点的に取り組んでいきます。「農家所得向上につながる営農指導」では、独自に開発した「農家台帳システム」を活用した経営指導と「出向く体制」に加え、「来ていただく体制」の構

築を図っています。一方、「労働力確保」では、短期・長期の労働力を求めている組合員に対し、それぞれの受け入れ支援を行っています。

農家台帳システムで経営支援来ていただく体制の構築も

JA独自に開発した農家台帳システムは、組合員のさ

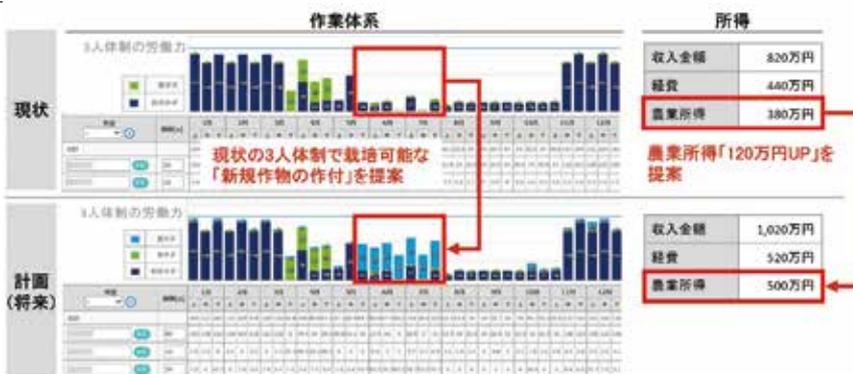


さまざまなデータに加え、組合員個々の将来設計や思いも蓄積しています。会議で決定した方針に基づき対象組合員を農家台帳から抽出し、対象農家への支援を行っています。「来ていただく体制の構築」では、JAの総合事業性を発揮すべく、部門間が連携して対応する「営農なんでも相談室」を設置しました。

組合員から最も要望の多かった労働力の確保では、短期の労働力を求める組合員向け「農業無料職業紹介所」を開設、年間を通じ労働力を求める組合員には「外国人技能実習生」

JA山武郡市 (千葉県)

経営シミュレーションのイメージ
(新規作物導入による120万円の所得増大の提案)



の受け入れ支援を行います。

概要 平成30年12月31日現在

正組合員数	1万2526人
准組合員数	9703人
職員数	391人
販売品取扱高	90億円
購買品取扱高	36億2千万円
貯金残高	2207億7千万円
長期共済保有高	6461億9千万円
主な農畜産物	米、ネギ、ニンジン、トマト、キュウリ、スイカ、ニラ、ナス

輸出専用日本酒ブランド「TOKYO Z1」誕生

ロンドンのイベントでお披露目

JA全農インターナショナル(株)は、小澤酒造(株)、日本酒類販売(株)とともに、輸出専用日本酒ブランド「TOKYO Z1」を開発し、7月からロンドンで販売を始めました。

【JA全農インターナショナル(株)】

「TOKYO Z1」は、東京都青梅市の小澤酒造が製造し、海外のお客さまにも手に取りやすいよう180mlの小瓶(現地販売価格1200~1500円程度)としました。「Z1」には、「ZeroからOne=全日本酒を飲んだことがない方に、まずひ



ロンドンのイベントで来場者に「TOKYO Z1」をPR

とくち飲んでもらいたい」という思いを込めています。

ロンドンで7月1、2日に開催されたアルコール飲料イベントで、来場したレストラン関係者やバイヤーに「TOKYO Z1」を披露しました。ブースでのPRに加え、「TOKYO Z1」を使用したカクテルの開発による新しい飲み方の提案や、日本酒マリアージュセミナーでの紹介などを行い、多数の来場者の関心を集めました。今後、欧州主要都市での販売も予定しています。

全農グループは、「TOKYO Z1」の販売を通じて、日本酒の価値を訴求するとともに、日本産米の消費拡大に貢献していきます。



7月に販売を開始した輸出専用日本酒ブランド「TOKYO Z1」



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc. ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン |

検索
クリック

JAひだ(岐阜県)



JAタウンは
こちらから



飛騨トマト(A品20玉)約4kg
.....2592円(クール代別)

岐阜県の「JAひだ」ショップからご紹介するのは、うまい! 新鮮! が合言葉の、「飛騨トマト」です。

飛騨トマトは、生産者378人により、約125haの面積という全国屈指の産地規模で作付けされ、7月から11月の間に出荷される夏秋トマトです。

自慢は、高冷地ならではの昼夜の寒暖差の影響による、しっかりとした果肉と、甘みと酸味の絶妙なバランスです。

お客さまからも、トマトの味が濃くおいしいと評価をいただき、毎年人気の商品です。

ぜひ、飛騨の夏の高級品、「飛騨トマト」をご賞味ください。

※少し青い場合は、常温で1~2日置いてからお召上がりください。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。

